ンによるハイビジョン映像のほかブルーレイディスク等の最新メディアにも対応し、多様化・高度化する町民のニーズに対応した各種資料の収集と提供を行うとともに、より親しみやすく、利用しやすい図書館を目指すとしています。開館は平成6年7月21日で、館長以下10名（正職員3名、非常勤職員7名）体制で、敷地面積9,780㎡、延床面積2,878㎡と、とてつもなく広い施設です。蔵書数（平成23年3月31日現在）は一般用185,791冊・児童書58,867冊・合計で25万冊に近いという、こちらもまたすごい数字です。年間利用者数は109,984人、年間貸出数は110,616点（一般50,977冊・児童書35,763冊・雑誌5,470冊・視聴覚18,406点）いずれも22年度実績ということで、どれをとってもすごい数字が並ぶ施設です。運営は直営、月曜と月末の館内整理日が休館で、貸出は図書資料1人5冊以内（2週間以内）視聴覚資料1人3点以内（2週間以内）規模の割には年間維持管理費は12,736,429円ということで、決して多くは無いようですが、人件費は別のようです。

集客については、新刊・新着コーナーをはじめとし、毎月のコーナー・特集・ベストリーダーの紹介等を行い、利用者の目に留まり、手にとっていただけるよう工夫すると同時に、柴田図書館と同じように毎月「図書館たより」を発行配布し、ひとりでも多い集客を促進しています。またマイクロバスを改造した移動図書館も配置されています。私見としては7．1チャンネルの180インチ大スクリーンシアター施設と、音楽CD・映画等DVD・BD・ビデオ等の視聴覚分野が18,406点も揃っており、こちらの利用もかなりあるものと思えました。ビデオ・CDのレンタル・セルショップが無い、当中山町図書館にも是非ほしいところであります。

加美町中新田図書館

両図書館ともそうですが色々な工夫をし、かなり手間隙を掛け集客し利用促進を図っているようで、ただ新しいからとか、蔵書が豊富だからという理由だけでは利用者は増えないのではないかと感じた次第です。また、図書を管理する上で膨大な〝人の手〟が必要で、両図書館ともに数十人規模の図書ボランティアを確保しており、極力経費をかけずに運営しているようで、今回視察させていただいた両町より人口の規模からいって二分の一あるいは三分の一の中山町においてどれだけ〝人の手〟を確保できるのか？という点でもどうなのか考えるべきだと感じました。

●Bach Hall

中新田図書館視察後、道中「Bach Hall」なる施設を見つけ、突然ではありますが職員の方に視察を受け入れていただきました。これは中新田町文化会館、通称「バッハホール」で昭和56年2月に落成した施設ですが、かなりメンテナンスに力をいれていると見えて、外観・内装・設備いずれも非常にきれいな施設でした。59年4月に設置されたというパイプオルガンは、幅7～8m程、高さは10m以上はあると思え、34ストップ、パイプ数2,193本という、めったにお目にかかれない超巨大オルガンで圧巻。ホールは可変舞台吸音装置を装備し、残響を1・2秒から2・1秒まで調整できるといいます。国内外有数の音響を誇るクラシック音楽の中でも室内楽に的を絞った、小粒でもピリッと辛い音楽ホール。1981年の開館以来〝田んぼの中のコンサートホール〟として注目を集め、地方からの文化発信の象徴的存在として全国的に知られています。音楽ホールとして世界の一流アーティストによるクラシックコンサートを開催するだけでなく、地方における町づくりのモデル施設として、全国から視察者が来館。生涯学習、芸術文化振興の場として多彩に活用されています。

偶然にも見つけた施設でしたが、クラシックや吹奏楽・軽音楽等を愛する人には是非一度は見てほしい施設だと感じた次第でした。

厚生産業常任委員会

（文：厚生産業常任委員会　副委員長　鎌上　徹）

2月16日朝日町あさひ保育園を視察研修してきました。当町でも保育園の運営方法については方向性を話し合わなくてはならない時期になってきていると思っています。あさひ保育園は当初公設公営での運営でしたが、平成23年4月1日より社会福祉法人あさひ会に運営を委託し、公設民営としてスタートした保育園です。敷地面積11,143㎡　延べ床面積1,986㎡　保育室375㎡　子育て支援センター389㎡　総事業費776,930千円となっています。

あさひ保育園

●保育園の現状について

・待機児童数は0名。

・0歳から2歳までの通常、一時、短期保育数は42名。

・3歳から5歳までの通常、一時、短期保育数は152名

0歳から2歳児まではできるだけ家庭教育をお願いし、3歳から5歳までは基本全員受け入れる体制との事でした。職員は41名（内役場派遣が10名、学童保育2名、支援センター員2名を含む）

●保育園の民営化になった経緯

朝日町では今まで町内に3保育園があり、町でもその体制を維持していく予定でしたが（朝日町には民間の幼稚園等の施設はゼロとなっている）3保育園の老朽化及び少子化の問題、延長保育、土曜日保育、未満児保育等の保育サービスの充実を考え、保護者と検討委員会を立ち上げ町との話合いのうえ民営化に踏み切ったとの事でした。

●民営化になった園への助成、補助金等

施設の維持管理費及び運営費に関わる人件費実額相当分を委託料で支払う。ただし、10名の派遣町職員は除かれます。保護者会で運営していた送迎バスは町が運営、全額補助となります。

●町民からの声（意見、要望等）

・園と町との関わりをなくさない。

・民営化で保育に欠ける要件がなくなるように思ってしまい、申し込みを行えば入所できると勘違いしてしまう場合がある。

施設で研修そして意見交換を行いましたが、これからの当町においての保育園のあり方についての議論の参考になればと思っています。

公営がいいのか、民営がいいのか、一ついえる事は子どもが犠牲にならず、子ども、保護者の納得のいく話し合いが必要だと思っています。

2月17日には宮城県涌谷町高齢者福祉複合施設ゆうらいふを視察研修しました。

涌谷町は人口17,761人。涌谷町町民医療福祉センターがあり、国民健康保険病院、老人保健施設、訪問看護ステーションの部門等があります。

●涌谷町国民健康保険病院

一般病床80床　療養病床41床

●老人福祉施設

・入所サービス　定員80名　要介護1～5認定者

・短期入所療養介護（ショートステイ）　定員80名に含む　要支援1～要介護5認定者

・通所リハビリテーション　1日55名　要支援1～要介護5認定者

●訪問看護ステーション　月120名程度の利用

以上のような施設があり、町を挙げての予防、治療、在宅ケアに力を入れている町であるのがわかります。

今回視察させていただいた施設は右記施設の他に町が作った複合施設でした。

●複合施設として

・特別養護老人ホームゆうらいふ　定員30名（ユニット型小規模介護老人福祉施設）

・グループホームゆうらいふ　定員18名

・ゆうらいふデイサービス　定員30名

・ゆうらいふ5番町デイサービス（地域密着型認知症対応型通所介護）

・生活支援ハウス（シェルター）

その他に

・居宅介護支援サービス

・ホームヘルプサービス

・訪問入浴サービス

などを行っている。施設の中は広々としていて入り口を入ってデイサービスと各サービスの事務所となっていましたが開放的でとても明るいのが印象的でした。

質疑の中で介護保険料の話もでましたが、積立金を切り崩し個人負担が増えないように対処しているとの事でしたが、本年度3,700円、来年度4,000円になる予定との事でした。施設への町からの助成、補助金は指定管理料として1,000万円（指定管理者社会福祉法人涌谷町社会福祉協議会）。今後民間の施設が100床の施設を涌谷町に建設を計画しているということです。

涌谷町特別養護老人ホーム
ゆうらいふ

民間施設の料金についても高額にならないように町と打ち合わせ、要請をしているとの説明を受けました。

中山町は今年増床を計画していますが、待機老人の数には全く足りていません。涌谷町とは全体規模も違い同じようには考えられませんが、待機老人を一人でも減らしていくために中山町でも努力していかなくてはと今回の視察で思いを強くしました。